

「魅力2倍・環境負荷1/2」

## 持続可能な低炭素都市の実現に向けて

NSRIは「魅力2倍・環境負荷1/2」をコンセプトに、日建設計の都市計画と設備設計の一部が一体となって設立した研究所です。設立3年を経過した現在、組織の中期ビジョンを策定中です。その戦略テーマは「持続可能な低炭素都市の実現」。

NSRIを率いる代表取締役所長 松縄堅より、その思いをVIEW増刊号として発行いたします。



環境・エネルギー、都市・交通の連携により描かれたホーチミンのアーバンデザイン提案

### リアリティとデザイン力が私たちの強さ “美しい低炭素都市”のシナリオを描きたい

低炭素都市への戦略は明快で、建築と交通に起因するCO<sub>2</sub>を削減することです。NSRIでは新築建物のゼロエネルギー化だけでなく、最大の課題である約750万棟に及ぶわが国の既存業務用ビルの低炭素化にも政策や制度面も含めた取り組みを始めています。

しかし、都市の未来はCO<sub>2</sub>を減らすだけでは拓けません。やはりデザインが大切です。“デザイン”とは、きれいな絵を描くことだけでなく、コンセプトと技術の統合、実現化への仕掛けづくりなど“ものづくりのプロセス”と考えています。私たちは、環境チームと都市計画チームの技術力と提案力を融合させて、技術に裏付けされた説得力とリアリティのある“美しい低炭素都市”のシナリオを描くことができるシンクタンクでありたいと考えています。

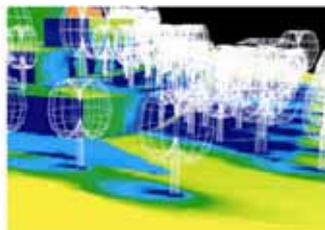
### 公共財産としての都市の価値を高める 公共的視点から建築・都市を考え、提案する

都市のデザインに説得力を持たせたい。それが日建設計グループでの私たちの役目だと思っています。

例えば、大崎Think Parkにある「大崎の森」は、素晴らしい環境効果を持っています。この森の価値を環境効果という“ものさし”を使ってわかりやすく説明することで、この



環境技術を活かして計画された大崎Think Parkの緑



森が点から線、線から面へと広がり、公共財産としての意識が生まれ、都市の価値が高まる。そこに私たちの研究所がお役に立てればと思っています。



緑による冷却効果、風の流れのシミュレーション例

### 自立を目指す都市のかたちを探る 低炭素都市のかたちを創りたい

世界では都市レベルの低炭素化に非常に強い関心があることを実感しており、私たちが東アジアを中心に低炭素都市の提案を始めつつあります。こうした活動は日本が有する環境技術を世界に広めたいという思いだけでなく、低炭素社会における日本の都市の“かたち”を探る意味でも重要と考えています。省CO<sub>2</sub>の先にある“都市の自立”。エネルギー面での自立を目指すには、都市構造そのものを変えていくことも視野にいれる必要があります。海外での新都市計画というフィールドでのチャレンジを日本の都市再生にも活かしていきたいと考えています。



環境配慮型都市構造の提案（中国・鄭州）